KSKQ第三種郵便物認可<サロン・あべの>通巻6813号2010年11月20日

KSKQ
出会い
ふれあい
助け合い
VOL.293
サロンあべの

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

資源よ、よみがえれ

リサイクルで土づくり

サロン・あべの10月の出会い

爽やかな風に乗ってキンモクセイの香りが流れる平成22年10月16日（土）午後1時～4時、育徳コミュニティーセンター2階修室で、〈サロン・あべの〉10月の出会いは、「生ごみを活かして土づくり」の活動にたずさわっておられる木下宣弘さんにお話を伺いました。

はじめに

木下さんは、大学の農業工学科を卒業後、建設コンサルタント会社で土木設計や農業土木技術の仕事をしてこられました。その中で農業技術の変遷も見てこられました。

終戦後食料増産が必要となり、昭和36年農業基本法が作られ、田や畑が整備されて大型機械等が導入。従来の農業が、農薬や化学肥料の使用などが勧められた農法へと移っていきました。その後、これまで畑や田んぼにいた虫や蛙の姿が見られなくなったと同時に、土にも異変が起きてきました。土に微生物がいなくなっていたのです。本来、土には微生物がいて、それを虫が食べて、その虫を鳥が食べて…と連鎖してゆき、人間の食料となり、人間の糞尿になる、それを微生物が食べて…と循環していました。

昔の畑にはその堆肥になる肥溜めがありましたが、それもいつしか消えて、大阪の淀川や道頓堀川も真っ黒なヘロドになり微生物が棲めない状態になっていました。

微生物が棲めない土からは、植物が育ちません。科学肥料や農薬を使用した植物は、見た目はきれいですが、人体にとって良いとはかぎらないということに

木下宣弘さん

気づいた人がおられました。

有機農法

有機農法は、土を活性化させることであり、そのために安全な生ごみを土に変えるリサイクル農法を考え出した人がいました。木下さんは、その人に出会ったことから有機農法の普及に努めたいと活動に参加してきました。

土は何から出来ているか。土は岩石が壊れて、たまった粒で栄養素は含まれていないが、畑の土は土壌（土の中に生物が入ってる）といわれ、作物を育てるベッドになる。この土を育み作物を育てる有機農法が重要視されだしたのは、1999年に農業基本法が変わってから。生き物を生かした農法で作られた作物は、農薬を使っていないから虫食いなどが見られるが、安心して食べられるようになる。

昔の堆肥作りには知恵と技術がありました。畑に人糞(人間が食べた物だから安全)を1年間寝かせると、チッソ、カリ、リンの三大要素に分解されて安全な肥料になります。土に堆肥を施すと小動物（カエルやミミズ等）や微生物が育ち、土の粒をつなぎ、水持ちが良くなります。また水はけも良くなり、柔らかい土つくりとなります。そのような土こそが植物を育てられる土になります。

生ごみ（レストランの残飯調理カス、野菜や魚のアラ、加工食品の不良品、ト殺場の内臓や血液）を分解させるZ菌が土の中にあることが分かり、それを加えて微生物を発酵させてゆきます。15～20時間後の発酵で鶏や豚の餌になる物ができます。これらを食べた動物は体力的にも優れ、玉子や肉質も好い物が生産できることが分かっています。また、土の堆肥にするためには、3ヵ月の熟成が必要です。

家庭でも生ごみを庭に埋めて堆肥を作ったりする人がいますが、注意が必要です。微生物のゴミの分解には、発酵と腐敗があり、発酵は人にとって役に立つものになりますが、腐敗は人に害を与えます。よい発酵には、エサ（腐る物）、水分、温度（人肌の温度がよい）、空気などが適度に作用することが大切です。

生ごみを活かすリサイクル農法は、養鶏場や養豚場などで好評です。これまでの豚や鶏は、動かないで食べて寝るだけの日々でしたが、平地で飼われて発酵エサを与えられた鶏や豚は自ら食べるために動き回り、畑の土を掘り起こし、糞をして、土壌を肥やす。そして、豚は赤身の肉質でヘルシーになり、レストランなどからも好評を得ています。鶏も産卵期間が長くなりました。

大量の生ごみがZ菌の活用で、人畜や農産物に安心な肥料や堆肥になるお話は、壮大なリサイクル物語でした。多くの人たちのも知っていただきたいお話だと思った10月の出会いでした。

（参加者18名　冨田慶子）

晴れのち晴れ　稲垣恵雄

■ガンバレ！

誰かが勝負ごとをしていたり、悪戦苦闘をしているのを見ると「ガンバレ！ガンバレ！」と声をかけたくなる。他人ごとではなく自分自身が窮地に追い込まれると自分で「ガンバレ！ガンバレ！」と励ましていることがよくある。

だがこの「ガンバレ！」という語源は「我を張る」からきている。と以前に聞いたことがある。「我を張る」とは自分の考えを無理にでも通すということだから決して良い言葉ではない。

それで私はあまり「ガンバレ！」という言葉は好きではなかった。

ところが先日、某誌を読んでいると、詩人の藤川幸之助氏が「『がんばる』とはもともと眼張ると書くらしい。要するに目を大きく見開いて見据えるということである」と書いておられた。そして同氏はこの言葉のあとに次のような詩を作っておられる。

言葉のない母の傍らに
たゞ何もしないで黙って座り
見開いた眼でしっかりと母を
見つめる
見つめなければ分からない
眼張らなければ聞こえてこない
小さな母のうなり声がある
・・・以下略

藤川氏の「ガンバレ！」の意味と詩を読んで私は考え方が変わり「眼張れ」という書き方が好きになった。これからは目を大きく開いて、しっかり見据えながら「ガンバレ！」という言葉をかけていきたい。

お知らせ

〈サロン・あべの〉12月の出会い

○内　容：「おいしいパスタとチーズフォンデュ」で出会いませんか？

○日　時：12月4日（土）午後1時～2時30分

○場　所：Cucina Italiana「オルガニコ」
［大阪市阿倍野区昭和町1-15-6-1F、
06－6623－3772
最寄り駅＝地下鉄御堂筋線「昭和町駅」

＊集合場所：地下鉄「昭和町」駅、エレベーター
－地上出口前

○参加費：2、500円

○申込み締切り日：11月末

○問合せ先：TEL06－6691－1028
（冨田慶子）

先月までのこと

先月、父が亡くなりました。認知症と診断されたのが二〇〇六年の三月でしたから、それから四年と七ヶ月で亡くなったわけです。その死は「早すぎた」と多くの人が言ってくれましたが、当時でも認知症の人の平均余命は八年で、父はすでに初期の段階ではなかったので、四年前には、いまの死を予想していたような気がします。

だったら、もう少し帰省して、父と話せば良かったと思うのですが、私の次男が二〇〇四年に生まれており、父が診断を受けたときには、私にはまだ二歳にならない子どもと小学一年生の子どもがいました。言い訳になりますが、そうそう家を留守にするわけにはいかなかったのです。

二〇〇七年の春には、父母をつれて三人で父の古里を訪問しました。脳の異変のためでしょうか、電車に少し乗ると、もう気分が悪そうでした。

二〇〇七年の十月から、デイサービスを利用するようになります。当初は、若い女性のスタッフと二人で喫茶店に行ったりして楽しそうでした

しかし、やがて母のことも誰だかわからなくなり、父の在宅生活も限界になってきました。そして二〇〇八年の末にグループホームに入りました。「母が病気なので、そのままグループホームで待っていてほしい」と言われ、父はそこに留まったのでした。父は、そのグループホームから神社に行き、母の回復を祈ったそうで、それを聞いて母は泣いていました。

二〇〇九年からのグループホームでの生活は、父には苦痛だったようです。いきなりインフルエンザにかかってしまい、部屋に隔離されてしまいました。それは施設生活ではやむを得ないことだったのですが、父にしてみれば、まさに理由なくして監禁されたようなものだったでしょう。生涯でもっとも辛い時期だったかもしれません。

そしてその年の一月に父はグループホームから行方不明になります。寒い雨のなかを、スリッパを片方はいただけの状態で何時間も歩いていたようでした。父はもともと丈夫な人だったのですが、そうでなければ死んでいただろうと医師には言われたそうです。

やがて父はトイレの場所もわからなくなり、ずっとギリギリまで我慢するようになります。二〇一〇年の三月に発作的に倒れたようになり、それ以後は歩けなくなりました。夏になれば、口からものを食べることすら難しくなりました。

そして九月の半ばに入院。そのままグループホームは退所となりました。入院先の主治医は、管をつけることで父に栄養を与え、命を維持することを考えていました。しかし、私は、それよりも父が安らかに生を終えられることを願っていました（母は、迷いながらも、やはりどうしても生きてい

てほしいと思っていたようですが）。そして、それを可能にさせてくれる病院や施設を妹とともに探しましたが、どうしても見つかりませんでした。

私たちの葛藤をわかっていたように、父は一ヶ月の入院のなかで、管をつける手術に耐えられる体力を回復しないまま、母と妹と私に文字どおり頭と両腕をさすられながら死んでいきました。機械だけが見守る孤独な死が避けられたので、私は亡くなる瞬間「ああ、良かったね、良かったね」と泣きながら父に伝えていました。八二年の生涯でした。（知）

美智子のこんな話

岸田美智子

カニは横に歩く!?

「カニは横に歩く」というタイトルの映画を皆さんは覚えておられますか？

この映画は、私は見たことがないのですが、70年代に始まった障害者運動の告発型の内容で、青い芝の会のメンバーが出演されています。このタイトルの意味は、カニは当たり前のように横に歩くが、その歩き方と同じように障害者の歩き方や、体つきも当たり前なのだという意味を込めているそうです。

青い芝の運動は、障害者運動の原点として知られていますが、その主張は親は敵であるとか、正義と愛を否定する、などという強烈なもので、優性思想でつくられているこの社会を根底から批判するものでした。重度障害者の生きる権利を認めてこなかった歴史を変えていこうとした、その思想は現在の障害者の自立生活運動に大きな影響を与えています。この映画のタイトルと同じタイトルの本が、講談社から最近発行されました。この本は、５００ページを超える長いもので、青い芝の会の設立背景やその生い立ち、活動の歴史などが詳しく書かれていて、興味深い内容になっています。編者である角岡伸彦さんは、実際に青い芝のメンバーの生活介護に入りながら、記録をまとめておられます。青い芝のメンバーはどんな生活環境でそだったのか？なぜ行動する障害者になったのか？青い芝という組織や個人のメンバーは何を目指していたのか？数々の糾弾闘争を経て何が達成出来、どのような課題をのこしているのか？障害者と健全者は共生できるのか、などなどの内容が書かれています。この秋に一読してみる価値がある本だと、私は思いました。

ぜひ皆さんも読んで見てください。

家族でアメリカ！ケンタッキー州滞在記

中村かずみ

—13—

ハロウィンが終わると、感謝祭です。

11月の第4木曜日がその日で、会社や学校は前日の水曜日からお休みになり5連休。普段全米に散らばっている家族もこの日ばかりは集まって過ごす、アメリカ人にはとても大切な行事なんだそうです。また金曜は大セールが恒例で、限定目玉商品をゲットしようとデパート前に泊まりこむテントの列が出来たりします（日本で言えば、お正月と新春大売り出し？）

子供たちは学校に通い出して3ヶ月。養護学級のカズキはともかく、コウジとサキはたっぷり宿題を持ち帰るようになりました。この時期のテーマはもちろん感謝祭のこと。

問、「感謝祭に、大統領は何をしますか？」

答、「ホワイトハウスで七面鳥を2羽放します」

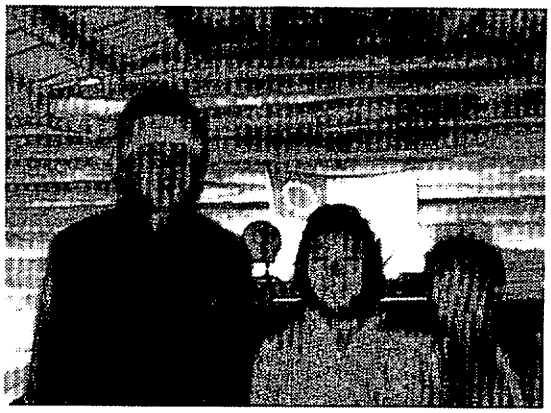
マスコミが集まる一大イベントだそうですが、知りませんでした。他にも州内の地理や移民の歴史など。問題だけ読んでやれば式はこどもだけで解ける算数や、挿絵で何となく分かる理科と違って、一緒に答えを調べなくては分からない社会の宿題はなかなか興味深いものでした。

そもそも感謝祭Thanks giving ってなんでしょう？

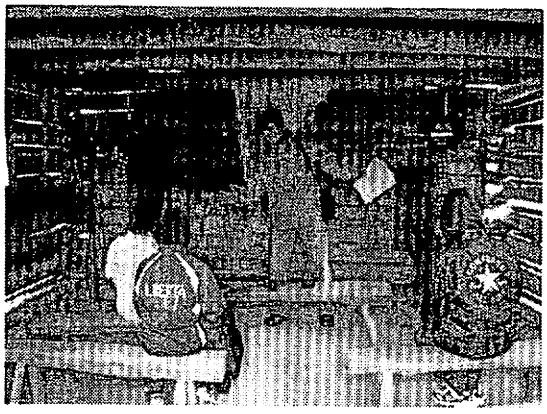
小学校の教科書曰く

【ヨーロッパから移民してきた最初の冬は厳しく、蓄えもなく死を待つばかりだった彼らに、インディアンが毛皮や食料を分けてくれた。春には、苗や種をくれ、育て方を教えてくれた。おかげで十分な収穫を手にした秋、移民達はお礼にインディアンを宴に招いた。それを記念して祝う日】なのだそうです。

宴のメインは七面鳥の丸焼き！（全米で山ほど殺される七面鳥のうちの2羽を、大統領は助けてあげるわけですね）家長が切り分ける決まりなのだとか。



ケンタッキー州初の入植地を見学。
後ろは、１７７４年当時の星条旗です。



ケンタッキー州初の学校だった小屋で、
中村先生講義中（笑）

スーパーに丸ごとの七面鳥&鶏がずらっと並びます。オーブンで焼くだけに処理した冷凍から、美味しそうに焼けた熱々まで。当日は我が家も小さめの鶏の丸焼きを1つ購入。さすがに丸々一匹は食べでがあって、5人でも夕飯だけでは食べきれませんでした。一番大きなサイズはいったい、何人分なのでしょう?

また、七面鳥料理にはクランベリーソースがつきものとか。

慣れない七面鳥は諦めた我が家でしたが、野菜コーナーの「生クランベリー」は一袋買ってみました。良く見るイラストは赤い実ですが、実物は大ぶりの山椒のようで堅くてみどり色。ベリーと言っても生食出来ず……ご近所さんにうかがったところ、煮ればいいだけ!というので教わった通りにお砂糖と水を入れて火にかけると、ぱぁっと赤く色が変わって酸味の爽やかなジャムもどきが出来ました。肉に添えるのは抵抗がありますが、パンにつけて良し、アイスやヨーグルトにかけても美味しかったです。

もう一度、と思っても感謝祭が終わると市場から姿を消しました(旬が短いのか、この時期しか売れないのか?)ジュースやドライ果実クランベリーを見かけると、煮ていた時のプチプチと実がはぜる音を思い出します。

ところで大統領が毎年助ける七面鳥は、大パレードのメインゲストをつがいで務めた後、なんとディズニーランドの牧場で余生を過ごすのだそうですよ。

次回はそのディズニーランドを話題にしたいと思います。

棚に溢れる七面鳥!　10kgで40$ぐらい?

(感謝祭の映画紹介)

「大災難P.T.A」(1987年)

出張先のニューヨークからシカゴへ。感謝祭を自宅で過ごすために主人公は必死なのに、欠航・渋滞・事故・泥棒・最低の同行者……急げば急ぐほど目的地が遠ざかって行く災難が、可哀想にも可笑しい、必見コメディです!(ちなみにタイトルのP.T.Aは飛行機・列車・自動車の頭文字です)

「大災難P. T. A」

サロン・あべの毎月の感謝

カンパ、飲み物、お菓子等と、サロングッズのお買い上げありがとうございました。

カスタネット、井関通弘、黒田るり、長福洋子、平岡太、廣田佐保、前島晴美、その他の方、

(敬称略)

12月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」１２月の出会い

日　　時：１２月１９日（日）午後1時３０分～４時
内　　容：「淀川の自然を守り育てる」
～ワークショップにて、淀川の葦で笛作り体験～
ゲ ス ト：稲垣泰平氏（災害に強い街づくりを考える会・世話人）
最近、増加する豪雨災害に備えて、自然を守ることで少しでも優しく強い街を作ることで、防災につながるのではないでしょうか。
場　　所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町２－１４－３
会　　費：なし
問合せ先：淀川区社会福祉協議会（ボランティア・ビューロー）
０６－６３９４－２９００

■「サロン・にしよど」１２月の出会い

日　　時：１２月１８日（土）午後1時３０分～3時３０分
内　　容：音楽の演奏とビンゴゲーム
～恒例のクリスマス会！楽しい歌と美味しいケーキで今年を締めくくりましょう～
ゲ ス ト：モンプランの皆さん（予定）
場　　所：西淀川在宅サービスセンター「ふくいく」
大阪市西淀川区千舟２－７－７
会　　費：なし
問合せと申込み先：０９０－９８６４－９６７８（中本）

■サロン「アイ」１２月の出会い

日　　時：１２月１１日（土）午後1時３０分～４時
内　　容：恒例のクリスマス会～公演とビンゴゲーム～
ゲ ス ト：マジック（合田享史氏）、紙芝居・とび出すおりがみ（中島万喜子さん）、
ハーモニカ演奏（桑本義美氏）
場　　所：生野区在宅サービスセンター「おかちやま」２階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北３－１３－２０
会　　費：なし
問合せ先：生野区社協（ボランティア・ビューロー）
０６－６７１２－３１０１
○サロン「アイ」便りの音訳テープあります。
ご希望の方は西浦まで。
０６－６７５７－８５７４（西浦）

■「サロンにし」１２月の出会いは、お休みです。

■《てくてくすみよし》１２月の出会い

日　　時：１２月１１日（土）１０時～１５時
内　　容：加藤義一氏の個展とクラフト（１０時より）
場　　所：O―CAT（難波）、４階・学習センター
材 料 費：１５００円（額付砂絵クラフト材料費）
申込み締切り日：１１月末日
申込みと問合せ先：山本篤江０６－６６９２－８４１１
携帯０９０－５１６８－５９７７

■「サロン・つるみ」１２月の出会い

日　　時：１２月１２日（日）午後1時３０分～4時３０分
内　　容：「エコ」をテーマに廃材を使い、クリスマスやお正月に役立つ小物作り
ゲ ス ト：米村金治氏
場　　所：鶴見区民センター３階［大阪市鶴見区横堤５－３－１５］
材 料 費：２００円
問合せ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
０６－６９１３－７０７０

■「サロンいたみ」１２月の出会い

日　　時：１２月１１日（土）午後2時～
内　　容：クリスマスコンサート
ゲ ス ト：アンサンブル・カノン
場　　所：伸幸苑［伊丹市寺本６－１５０、０７２７－７８－６７６５］
会　　費：なし
問合せ先：０７２－７８４－１７１８（安藤れい子）

＜サロン・あべの＞Vol.２９３　発行：平成２２年（２０１０年）１１月２０日　定価￥１００
編集人：＜サロン・あべの＞運営委員会　表題：中西利香・筆
事務局：〒545－0021大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６冨田慶子方＜サロン・あべの＞
TEL・FAX06―6691―1028　　郵便振替口座：サロン・あべの00950－９－26941
印　刷：セルフ社〒546－0044東住吉区北田辺町4－23－2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます

発行人：関西障害者定期刊行物協会［大阪市天王寺区真田山町２－２東興ビル４F

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）